

日本神経精神薬理学会  
第47回理事会(2010年度)議事録

日時: 2010年9月14日(火) 12:00~15:00

場所: 仙台国際センター 1階「小会議室1」

(〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地 TEL: 022-265-2450 / FAX: 022-265-2485)

出席者: 米田幸雄(理事長), 池田和隆, 石郷岡 純, 大森哲郎, 尾崎紀夫, 小山 司, 曾良一郎(会長)  
武田雅俊, 仲田義啓, 野村総一郎, 山田清文, 山本経之, 吉岡充弘(以上、理事)  
山脇成人(アドバイザー)

欠席者: 齋藤利和, 武田弘志, 松田敏夫(以上、理事), 加藤進昌, 五味田 裕(以上、監事)

記録: 中川庸幸・佐々木真紀(事務局: 学会支援機構)

冒頭に米田幸雄理事長から前回(第46回)理事会議事録(案)が提出され、承認された。

・報告事項

1. 第40回年会(第20回日本臨床精神神経薬理学会と合同開催)準備状況報告について  
曾良一郎会長から本年会開催に関する概要が報告され、開催にあたり関係各位に謝辞が述べられた。

2. 各委員会報告

a. 総務委員会(齋藤理事欠席のため米田理事長から報告)

- 1) 以下の通り会員報告がなされた。

会員数: 1,175名(2010年8月31日現在)

内 訳: 名誉会員 20名, 評議員 176名, 正会員 951名, 学生会員 5名, 賛助会員 23社

新入会: 39名

退 会: 本人申出 23名

逝 去 1名

物 故 者 加藤伸勝 名誉会員 2010年6月29日 ご逝去

評議員会/総会において黙祷が捧げられた。

b. 編集委員会(石郷岡理事)

雑誌刊行状況、依頼状況、査読状況につき以下の報告がなされた。

1. 刊行状況, 依頼状況, 査読状況

- 1) 刊行状況 第29巻(2009年)総説17、ミニレビュー6、原著論文4を掲載。

- 第30巻(2010年)総説21、ミニレビュー8、原著論文1を掲載。

- 2) 依頼状況 依頼論文で今年ご寄稿いただいた原稿は19編である。

(うち学会シンポジウム16編)

- 3) 査読状況 昨年の投稿は総説2, 原著2(うち英文0), 短報1の計5編。

本年の投稿は原著2(うち英文1)の計2編にとどまっている。現在査読中はそのうち1編である。

2. 執筆依頼・企画

例年どおり編集委員による総説とミニレビューの依頼をする。

今年も引き続きシンポジウムの依頼をし、来年掲載していく予定である。

3. 若手のシンポジストが非常に力を入れて執筆しており、雑誌の発展に繋げていきたい。  
また、日本臨床精神神経薬理学会(以下、CNP)では e-Journal 化を実現したことから  
状況を確認しながら今後の発展に反映、検討していきたいとの報告がなされた。

c . 財務委員会（武田(弘)理事欠席のため米田理事長から報告）  
審議事項にて審議。

d . 国際学術委員会（尾崎理事）

CINP2010へ参加し、利益相反の関係で製薬会社の扱いなど様相の変化が見られた。学会としても国際的な流れに乗り遅れないように追隨していく必要があり、本会としての規則の作成も検討していく必要があるのではないかとの提案がなされた。

以上の報告を受け、総務委員会の検討事項として、委員会へ検討依頼がなされることとなった。

e . 学術賞選考委員会（山本理事）

1 . 2010年度学術賞受賞者の選考

対象論文は4編であったが、うち1編の著者は2008年の学術賞受賞者であるため、本年度の選考対象論文は3編となった。同3編は選考対象論文資格を満たしていることを確認し、昨年度と同様に各選考委員による一次審査を郵送で行った。

各委員からのコメント、採点結果を基に慎重に審議を行った結果、臨床系論文であった1篇を学術賞候補論文として推薦することとしたが、内容の一部において検証すべき事項の指摘があり、検討の結果、山本委員長から編集委員会に査読内容について確認するとともに、学術賞選考委員会でも専門家に検証を依頼するなど確認した後、結論を出すこととした。後日、上記の手続きを行った結果、同論文は学術賞の推薦には至っていないとの結論に達し、2010年度の学術賞は該当なしとして理事会へ報告がなされた。

2 . JSNP Excellent Presentation Award for CINP 2010 授賞者報告

以下の17名を授賞者として選考し、CINP2010の会場にて表彰式を行った。

また、受賞者への副賞の授与も終了していることも報告がなされた。

No.	演者名 / 所属	演題名
1	縄田 陽子 (長崎国際大学薬学部薬理学研究室)	The facilitating role of corticotropin-releasing factor (CRF) in reinstatement of methamphetamine-seeking behavior induced by foot shock stress
2	梨子田 哲明 (大阪大学大学院薬学研究科複合薬物動態学分野)	The Na <sup>+</sup> /Ca <sup>2+</sup> exchange inhibitor SEA0400 protects against dopaminergic neurodegeneration in a mouse model of Parkinson's disease
3	押淵 英弘 (東京女子医科大学精神医学教室)	Valproic acid attenuate dopamine fear response in the basolateral amygdala; an in vivo microdialysis study
4	韓 文華 (東京都精神医学総合研究所分子精神部門)	Reduced locomotor sensitization induced by methamphetamine and altered gene expressions in ICER over-expressing mice
5	矢野 耕史 (大阪大学大学院薬学研究科複合薬物動態学分野)	Fluvoxamine facilitates dopamine release in the prefrontal cortex of adrenalectomized/castrated mice via activation of sigma1 receptors
6	山脇 洋輔 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科病態薬物治療学講座)	Antidepressant-like effect of Sodium Butyrate and its effect on gene expression in the rat hippocampus
7	野村 理朗 (広島大学大学院総合科学研究科行動科学講座)	Impulsivity-related human prefrontal brain activation during Go/No-go task is moderated by COMT Val 158 Met polymorphism: a fMRI study
8	笠井 慎也 (東京都精神医学総合研究所分子精神医学研究)	Associations between nucleotide sequence differences in the Oprm1 gene and sensitivity to morphine in wild-derived inbred mouse

		strains
9	有銘 預世布 (東北大学大学院医学系研究科 神経感覚器・病態学講座精神・神 経生物学分野)	Prefrontal norepinephrine transporter blockade ameliorates deficits of prepulse inhibition in dopamine transporter knockout mice via cortico-subcortical glutamate projections.
10	山田 麻記子 (久留米大学医学部薬理学講座 )	Comparison of the depression-like behavior and serotonergic system between Wistar and Wistar Kyoto strains of rats
11	佐古 彩 (金沢大学薬学部創薬科学科薬 物学研究室)	A role of glutamine transporter expressed by astrocytes in glutamate neurotoxicity
12	大谷 保和 (東京都精神医学総合研究所)	Influences of GIRK channel inhibition on alcohol abstinence and relapse risk in Japanese alcohol-dependent outpatients.
13	川越 博文 (金沢大学薬学部自然科学研究 科薬物学研究室)	Responsiveness of glia-derived neurotrophic factor to nicotine in cultured rat cortical astrocytes
14	福森 良 (金沢大学薬学部自然科学研究 科薬物学研究室)	Acquired NMDA channels artificially expressed in HEK293 cells
15	米山 雅紀 (摂南大学薬学部薬理学研究室)	Edaravone promotes proliferation/survival of neural stem/progenitor cells after neuronal degeneration in the hippocampal dentate gyrus
16	野上 愛 (福岡大学薬学部臨床疾患薬理 学教室)	Effect of Yokukansan on the sleep disturbance of an animal model for cerebrovascular dementia
17	齋 志前 (東北大学大学院医学系研究科 神経感覚器・病態学講座精神・神 経生物学分野)	Effect of Chronic Lithium Treatment on Gene Expression Profile in Mouse Microglia and Brain Dendritic Cells

f. 長期計画委員会 (小山理事)

NP と CNP の統合に関しては、まだ機が熟していないとの感触もあり、今後も引き続き、合同  
年会を進めながら交流を深めていく必要があるとの報告がなされた。

g. 広報委員会 (吉岡理事)

本学会ホームページの最新の掲載内容について報告がなされた。

h. 研究推進委員会 (武田(雅)理事)

学会活動の活性化のためにも関係団体・基金の研究助成金が利用・申請ができるような活動  
が必要であり、関係委員会と連携して進めていきたいとの報告がなされた。

i. 倫理委員会 (松田理事欠席のため米田理事長から報告)

報告事項は特になし。

3. 第 41 回年会 (第 21 回日本臨床精神神経薬理学会と合同開催) 準備状況報告

鈴木次期会長が欠席のため、米田理事長と野村理事 (次期 CNP 会長) から以下の通り年会準備状  
況について報告がなされた。

日時: 2011 年 10 月 27 日 (木) ~ 29 日 (土) (10 月 26 日 (水) は理事会・各委員会開催予定)

会場: 京王プラザホテル (東京)

会長: 鈴木 勉 (星薬科大学薬品毒性学教室・教授)

第 21 回日本臨床精神神経薬理学会 (野村総一郎 CNP 会長) と合同開催

4 . CINP2010 報告 ( 米田理事長 )

本年開催された CINP2010 について報告がなされた。

5 . AsCNP アドバイザー報告 ( 山脇アドバイザー ( AsCNP 会長 ) )

資料に基づき、AsCNP 理事会報告と ACNP、ECNP 関連報告がなされた。

1 ) AsCNP 理事会報告

本年 9 月 10 日に韓国ソウルにて韓国神経精神薬理学会が開催され、その会期中に AsCNP 理事会が開催された。第 2 回アジア神経精神薬理学会はソウル ( 韓国 ) で開催されるが、昨年の第 1 回京都大会では、韓国から 100 名もの参加者があったため、第 2 回ソウル大会では、日本からの多数の参加者が期待されており、国内学会の協力をお願いしたいとの報告がなされた。

2 ) ACNP 関連報告

2009 年 12 月 8 日に 2009 CINP / ECNP / ACNP Leadership Meeting が開催され、日本から山脇アドバイザーが出席した。内容としては、AsCNP の設立を重要視しており、2010 年 12 月に開催される ACNP に 10 名の出席枠を AsCNP へ与えられることになった。

これを受け、急遽、加盟国である中国 ( 3 名枠 )、韓国 ( 2 名枠 )、台湾 ( 2 名枠 ) へ打診したが、中国、韓国は都合がつかず、日本 ( 8 名 )、台湾 ( 2 名 ) となり、合計 10 名の参加者リストを ACNP 側へ伝えたことが報告された。

3 ) ECNP 関連報告

2010 年 8 月 22 日にアムステルダムにて、ECNP が開催され、AsCNP の代表として出席し、AsCNP の設立等について、報告を行った。

4 ) 日本の今後の対応について

( 1 ) AsCNP 常設事務局の設置について

以上のことから昨年設立したばかりの AsCNP が国際的に対等な立場で認められることになったが、一方で AsCNP 事務局の立ち上げも急務となった。AsCNP については、韓国もかなり積極的に参加していることからこれからも日本が主導的な立場でアジアの神経精神薬理学の発展に寄与するためにも日本に設置することが必要と思われるとの報告がなされた。

以上の報告を受け、本会としては、日本に常設事務局を設置する方針について承認し、事務所の維持についても可能な相応の負担を行うことが承認された。なお、AsCNP の国内対応学会は、CNP との協力で進めているため、CNP の意向を確認してから打診することとなった。

( 2 ) ACNP への日本からの 8 名派遣の補助について

今後、AsCNP として委員派遣等の費用の発生が想定される。AsCNP の財源等の議論もあるが、今回の ACNP への 8 名派遣については、何らかの補助を振興基金からの捻出をお願いしたいとの要請がなされた。

以上の要請を受け、慎重に協議を行い、今回の日本からの派遣については、振興基金から往復のエコノミーの渡航経費を捻出することが承認された。支給金額については、実費負担を原則とし、旅費領収書や関係書類を添付の上、日本神経精神薬理学会事務局まで申請することになった。なお、個人の理由による渡航費の差額分については、個人負担として、その場合には証拠書類はエコノミー実費金額を明記し申請することになった。

( 3 ) 国際派遣に関する派遣補助費等の手続きについて

AsCNP が国際的に認知されたことにより、当会からの協力派遣手続きの発生と経費負担も考えられることから、その事務手続きについて、協議を行った。申請内容の審査については、国際学術委員会が対応し、国際学術委員会でメーリングリストを立ち上げ、該当者は事務局へ申請し、事務局から国際学術委員長へ報告。委員長から委員会へ配

信し審議することになった。最終的な承認は、理事会での持ち回り審議を行い、承認後手続きすることが確認された。

#### ・審議事項

1. 学生会員資格の新設について（齋藤理事欠席のため米田理事長から報告）  
前回の理事会にて、学生会員制度を新設することが理事会で承認された。その後の協議修正された会則改定案が提出され、評議員会／総会へ諮ることが承認された。
2. 2009年度収支決算、2010年度会計中間報告および2011年度予算案の件（武田（弘）理事欠席のため米田理事長・事務局から報告）
  - 1) 2009年度収支決算について  
2009年度収支決算および神経精神薬理振興基金決算について報告がなされ、承認された。  
なお、基金会計の資産については、ペイオフを考慮した資産管理とすることが確認された。
  - 2) 2009年度監査報告書について  
監事2名による監査の結果、収支の記載が適正であると認められていることが報告された。
  - 3) 2009年度会計中間報告がなされた。
  - 4) 2011年度収支予算案について  
前回の理事会にて、大会補助金を50万円から80万円へ増額することになり、同金額を計上した2010年度予算案について審議を行い、承認された。
3. 「学術賞」のあり方について  
前回の理事会で、「学術賞」の在り方について見直す必要があるのではないかと意見があり、理事会からの要請に基づき、長期計画委員会、編集委員会および学術賞選考委員会の3委員会以下項目について意見を諮り、集約したものを理事会へ提案することになった。
  - 1) 従来の「学術賞」を「論文賞」に改め、名称変更だけに留める。
  - 2) 優れた業績を上げた会員に送られる「学会賞（仮称）」（1名）を新設し、新たな選考基準を設ける。その際、現行の「学術賞」（論文賞）は存続させる、または中止する。
  - 3) 現行通りで問題はない。  
3委員会での意見も参考に検討したところ、1)「論文賞」への名称変更だけに留め、2)については、学会の学術的な奨励を目的として、「学術奨励賞」の新設することが提案された。  
学術賞選考委員会にて選奨資料が提出され、理事会で審議した結果、賞の創設については学会の発展のため必要であるとの同意を得たが、学会誌のあり方も含めた議論が必要であることから、理事会での継続審議とすることとなった。
4. 功労会員推薦制度の新設について（齋藤理事欠席のため米田理事長から報告）  
前回の理事会にて、功労会員制度を新設する方針が承認され、具体的な細則案について、総務委員会で検討を行い、「功労会員推薦細則（案）」が提出された。  
理事会で審議の結果、原案どおりにて、今回の評議員会／総会へ諮ることが承認された。  
なお、今回の功労会員推薦細則と学生会員制度の新設に併せた会則改定案は以下のとおりである。

#### 功労会員推薦細則

総務委員会

#### 会則規定

第10条 功労会員は、本学会の活動に特に貢献した者の中から、理事または評議員の推薦により評議員会の承認を得て推戴する。

細 則

1. 「特に貢献した者」の目安は、本会の評議員歴 10 年以上の者とする。
2. 年齢は 65 歳以上とする。
3. 理事または評議員 2 名の推薦状を理事長宛に提出する。
4. その他、本学会の発展に著しく寄与した者。
5. 本細則を変更するには、理事会の承認を得なければならない。

以上

附 則

- 1) 2010 年 9 月 14 日制定、理事会承認。

日本神経精神薬理学会 会則新旧対照表

旧	新
第 8 条 本会の会員は、次のとおりとする。 1. 一般会員 2. 名誉会員 3. 賛助会員	第 8 条 本会の会員は、次のとおりとする。 1. 一般会員 2. 学生会員 3. 功労会員 4. 名誉会員 5. 賛助会員
第 9 条 一般会員は、神経精神薬理学領域の活動に従事する者で、評議員が推薦し、理事会の承認を得た者とする。一般会員として入会を希望する者は、所定の申込用紙に必要事項を記載し、年度会費を添えて事務局に申し込まなければならない。	第 9 条 一般会員及び学生会員は、神経精神薬理学領域の活動に従事する者で、評議員が推薦し、理事会の承認を得た者とする。一般会員または学生会員として入会を希望する者は、所定の申込用紙に必要事項を記載し、年度会費を添えて事務局に申し込まなければならない。
	第 10 条 功労会員は、本学会の活動に特に貢献した者の中から、理事または評議員の推薦により評議員会の承認を得て推戴する。
	第 10 条の新規条文追加に伴い、旧第 10 条から第 26 条まで付番変更となる。
第 12 条 会員は、機関誌の配布を受け、一般会員及び名誉会員は学術集会、機関誌などに研究成果を発表できる。	第 13 条 会員は、機関誌の配布を受け、一般会員、学生会員、功労会員及び名誉会員は学術集会、機関誌などに研究成果を発表できる。
第 14 条 一般会員の年度会費は 8,000 円とし、各年度の初めに納入するものとする。ただし評議員の年度会費は、10,000 円とする。	第 15 条 一般会員の年度会費は 8,000 円とし学生会員の年度会費は 4,000 円とする。年会費は各年度の初めに納入するものとする。ただし評議員の年度会費は、10,000 円とする。
	附則 2 学生会員資格については、2010 年評議員会承認後、その施行日を 2010 年 1 月 1 日まで遡り適用するものとする。

5. 次々期会長の選出（米田理事長）

2012 年の次期会長については、前回の理事会において石郷岡 純理事（東京女子医科大学・教授）にお願いすることが全会一致で承認された。理事長から石郷岡理事へ会長就任について打診し、快諾いただいたことが報告された。引き続き、石郷岡理事から挨拶が述べられた。

6. 新評議員推薦の件（斎藤理事欠席のため米田理事長から報告）

以下の 3 名が推薦されており、審議の結果、評議員として委嘱することが承認された。

天野 託（国際医療福祉大学薬学部）

間宮隆吉（名城大学薬学部）

泉 剛（北海道大学大学院医学研究科薬理学講座神経薬理学分野）

7. 名誉会員推戴の件（斎藤理事欠席のため米田理事長から報告）

前回の理事会にて名誉会員推戴候補者が提示され、全会一致で全員が承認された。推戴のため5名の先生方へ就任内諾をお伺いし全員から快諾を得たので、評議員会 / 総会へ推戴候補者として諮ることが報告された。

安東 潔 先生，笹 征史 先生，佐藤光源 先生，高橋清久 先生，中嶋敏勝 先生

8. 新入会希望者承認の件（斎藤理事欠席のため米田理事長から報告）

本年3月1日から8月31日までに39名の入会申込者があったことが報告され、全員が承認された。

9. その他（米田理事長）

1) 会員の臨床系・非臨床系の区分について

本年は理事・監事の半数改選の年であるため、評議員各位へ被選挙人名簿を事前に送付し、臨床系・被臨床系や所属先名称の確認を行ったが、臨床・非臨床の区分について、明確な基準があるのかとの問合せがあった。

現在、学会として臨床・非臨床の区分は本人の申し出により登録しており、具体的な区分基準は設けておらず、その必要性について協議を行った結果、当面は本人の申告にて登録をすることが確認された。

以上

平成22年9月14日  
日本神経精神薬理学会  
理事長 米田 幸雄